「過去の物語」が「今の物語」へ――
戦争とは何かを伝える。映画『ひまわり』上映会

この上映会の収益金は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）へ寄付させていただきます。

6月18日（土）

①14:30　②18:00

＊開場は、各回開演時間の30分前です

東広島芸術文化ホールくらら
小ホール（東広島市西条栄町7番19号）
＜JR山陽本線 西条駅下車、徒歩約4分＞

鑑賞料	前売券	当日券
一　般	800円	1000円
大学生以下	500円	500円

前売券の取扱い先
東広島芸術文化ホールくらら
チケットセンター
※くららフレンズ会員割引は、ご利用いただけません。

※シニア他、割引券はありません。
※チケットは御鑑賞される開演時間（14:30又は18:00）をお買い求めください。
※御来場の際はマスク着用、手指消毒のご協力をお願いいたします。

☆チケット購入時のお願い☆
コロナ感染症拡大防止措置のため、各種チケットに、お名前と連絡先の記入欄があります。ご来場前に枠内をご記入の上、会場へお持ちください。（ご記入いただきました個人情報は「ひまわり」東広島上映会のコロナ感染防止措置以外では使用いたしません。）

主催：映画『ひまわり』を観る会 東広島
お問合わせ：TEL 090-2863-8050（桂）、TEL 080-1903-7006（綿岡）、TEL 090-8603-0417（二階堂）、TEL 080-4558-7232（佐藤）

日本人が愛した、映画史に残る永遠の名作。最新のデジタル技術で修復されてあざやかに蘇る。

見渡す限りに広がった一面のひまわり畑。ソフィア・ローレン、マルチェロ・マストロヤンニの競演、ヘンリー・マンシーニの甘く切ないテーマ曲に彩られた本作は1970年の洋画興行ランキング5位を記録しイタリア映画としては異例のヒットに。以来何度も劇場公開され、そのたびに映画ファンの心をつかんできた。

第二次世界大戦下、陽気なアントニオ（マストロヤンニ）と結婚したナポリ女のジョバンナ（ローレン）は、夫を戦争に行かせないために狂言芝居までするが、アントニオは地獄のソ連戦線に送られてしまう。終戦後も戻らない夫を探すために、ジョバンナはソ連に向かい夫の足跡を追う。しかし、広大なひまわり畑の果てに待っていたのは、美しいロシア娘と結婚し、子供に恵まれた幸せなアントニオの姿だった。

カンヌ映画祭パルムドール、アカデミー賞®外国語映画賞などに輝く世界的巨匠ヴィットリオ・デ・シーカ監督による、涙あふれる悲しい愛の名作が、公開から50年の時を経てHDレストア版として復活。広大なひまわり畑はウクライナの首都キエフから南へ500キロほど行ったヘルソン州で撮影された。東西冷戦当時にヨーロッパの国がソ連で映画撮影をすることは珍しく、当時のソ連の最新の設備が登場し、積極的に映画撮影に協力した政治的背景も興味深い。

市民は「ひまわり」の種で戦う

自分の住む町に侵攻してきたロシア兵に向かって、女性が次のように言葉を投げ掛けていた。
「あなたは誰」「ロシア人なの？」「いったいここで何をしているの」「占領軍ね、ファシスト！」
「私たちの地元に来ていったい何なの」「なんで武器をもってここに来たの」「この種を持って行きなさいよ」
「あんたがこここで死んだ時、そこからヒマワリが生えるように」「あんたたちみんなこの種をポケットに入れてよ」
「種を持って行ってよ、あんたたちは種をもってここで死ぬんだから」「わかってるの？ あんたたちは占領軍だ」
「この先あんたたちは呪われる」「呼ばれてもいないのにやって来たのは、あんたたちでしょ」
ロシア兵はその剣幕に恐れをなしてか、「事態がこれ以上悪化しないようにしよう」などというばかり。

——英 BBC ニュース映像より

「ひまわり」以前、ロシア（ソビエト）を舞台にした映画製作は「鉄のカーテン」に遮られ、ソ連邦での撮影は不可能だった。だが製作のカルロ・ポンティらが何度もモスクワを訪ね、当局と粘り強く交渉し、ウクライナの広大なひまわり畑をフィルムに収め、映画の成功に結びつけた。作品中、ひまわり畑に立つ石碑の詩が胸を打つ。
「ナポリの息子よ／なぜ君はロシアの野へ来たのか／故郷の湾に飽きたのか／ウホストークで君は／ベスビオの山を想っていた」

"ひまわり"はウクライナの花でもあり、ロシアの花でもある。

映画を通じて、「戦争とは何か」。について考えてみませんか？

この上映会の収益金は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）へ寄付させていただきます。

主催：映画『ひまわり』を観る会 東広島